学校番号	3001

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校生の地理総合（帝国書院）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・社会的事象について地理的に理解し、問題について考え行動する力をつける。
・世界の諸地域の環境や文化を学び、地球的課題への取り組みについて学ぶ。
・持続可能な社会の在り方について考える
・教科書は毎時、持参する。ノートは適時提出を求める。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・地図・地理情報システムの活用法を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
・世界の地域・国々のことを学び、地球的課題について考えられるようになる。
・日本の気候や災害について理解し、防災の観点をもって生活できるようになる。
【学びに向かう力、人間性等】
・良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	地図や地形図の読み取り方、地理情報システムの利用法について理解する。 諸地域の生活文化の多様性を学び､地球的問題の所在について理解する。 日本の自然環境について理解し､火山や地震､津波の被害や防災について理解する。	情報を地図やグラフにまとめ表現することができる。 様々な背景をもつ国家からなる国際社会が抱える地球的課題への取り組みについて考え､議論することができる。 起こりうる災害についての理解し防災の観点から生活を考えることができる。	身近な生活に関わる問題から地球規模の課題まで自身の生活や人生に関わる問題として学び行動する態度が身についているか。 意見や価値観の違う他者を尊重しながら諸問題の解決に向かっていく態度が身についているか。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	地図や地理情報システムでとらえる現代社会	・地球儀と地図 ・地図と地理情報システム ・現代世界の国家と日本の領域と領土 ・地図から見る国内や国家間の結びつき	a:地図の読み方、地理情報の利用の仕方を学び、地理情報システムの有用性について理解をする。 b:現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して主題を設定し世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察し、表現すること。 c:地理的な見方、考え方を身につけようとしているか。	定期テスト ノート	定期テスト ノート	観察 ノート
2学期 3学期	国際理解と国際協力	・世界の地形と人々の生活 ・世界の気候と人々の生活 ・世界の産業と人々の生活 ・世界の宗教・民族・言語と人々の生活 ・多様な生活文化と地理的環境 ・人口問題 ・食料問題 ・都市・居住問題 ・感染症・衛生問題 ・資源・エネルギー問題 ・地球環境問題	a:世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性を持つことや地理的環境の変化によって変容することを理解する。 ：世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に地球的課題を大観し理解する。 b:地理的な知識を基に主題を設定し、多様性や変容の内容の要因などを多面的に考察し、表現することができる。 c:自己の関心をもとに主体的に課題を設定することができている。	定期テスト ノート	定期テスト ノート	観察 ノート

	持続可能な地域づくりと私たち	・日本の自然環境 ・地震・津波や火山活動による災害と防災 ・気象災害と防災 ・自然災害への備え	a:人間と自然環境との相互依存関係や地域などに着目し、我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏でみられる災害を基に防災などの重要性について理解する。 b:地域性を踏まえた防災について自然及び社会条件との関わり、地域の共通点や差異などに着目して主題を設定し、自然災害への備えや対応などを考察し表現すること。 c:主体性をもって課題解決に取り組もうとしている。	定期テスト ノート	定期テスト ノート	観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度